

新年のご挨拶

新年あけましておめでとつございます。

組合員並びにご家族の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より当共済組合の事業運営に関しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は東京で2度目のオリンピックが開催される記念すべき年であり、皆様も胸を躍らせて待ち望んでおられることとご推察いたします。

さて、共済組合を取り巻く環境に目を向けますと、5年後には「団塊世代」の方々が75歳以上となり、それ以降「高齢者の急増」から「現役世代の急減」に局面が変化し、少子高齢化のスピードは加速するばかりです。このような状況下、政府は昨年9月より全世代型社会保障検討会議を開催し、誰もが安心して暮らせる社会保障制度全般に渡る持続可能な改革について検討を重ねています。また、本年取りまとめられる予定の「骨太方針2020」に高齢者医療費の負担構造改革、保険

給付の適正化等が盛り込まれるのかも、注視していく必要があります。

共済組合では、組合員の健康増進と重症化予防等に取り組みべく「第2期データヘルス計画」に基づき、特定健康診査・特定保健指導を行っております。この検査・健診等から得られたデータと医療費のデータ分析を行い、健康課題の効果的な改善や健康づくりを積極的に推進し、皆様の健康寿命の延伸に向け、一層努力してまいり所存です。健診率・指導率は、目標値とは大幅に乖離しております。皆様におかれましては、健診指導を必ず受けていただくとともに、日々の健康づくりと適正受診、シネリック医薬品の使用等で、医療費の抑制にご協力くださるようお願い申し上げます。

公的年金制度につきましては、昨年8月に財政検証の結果が公表されました。内容につきましては、同10月広報誌Wee1に冊子「年金財政の現況」を折り込みしましたが、年金水準を確保する



理事長
持木 一茂

ためには、経済成長と労働参加を促進することが重要としております。今後、この結果を踏まえ厚生労働省社会保障審議会年金部会で年金制度改革の議論が進められ、被用者保険の適用拡大や繰下げ制度の柔軟化等、多岐にわたる制度改革が予想されます。これらの情報を年金説明会や広報誌での確にお知らせしてまいります。

貯金事業におきましては、組合員の貯金額は順調に増加し、今年度末には、500億円を突破する見込みです。市中金利は低金利が続いておりますが、今後も適切な資金運用に努めてまいります。

また、貸付事業は、貸付利率引き下げにより利用が増えております。生活必需品や住宅の購入、修学等さまざまな用途にご利用いただけますので、ぜひご活用ください。

宿泊事業におきましては、粟津温泉「おびし荘」が、昨年度新築オープン20周年を迎え多くの組合員の皆様にご利用をいただきました。その反動で、今年度の利用客減を危惧しておりましたが、前年度とほぼ同水準のご利用をいただいているところであり、本年も皆様にご満足いただけるよう、各種プランを充実させ、職員一同、サービスの向上に努めてまいりますので、引き続きご愛顧くださいますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様のこの二年のご多幸とますますのご健勝を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。